

参加
無料

防災と ウェルビーイング

静岡県立大学グローバル地域センター「地震と火山と防災」連携講座

こんな方におすすめ

- 災害時のウェルビーイングに興味がある人
- 防災の視点で視野を広げたい人
- 事業の視点で防災活動を考えたい人

大規模災害が起きた場合の避難所でのウェルビーイングがテーマです。災害関連死を防ぐために、医師や専門家が指摘する非難所のTKB（T=トイレ、K=キッチン、B=ベッド）。TKBにスポットを当てながら、大規模災害後の避難所での生活や二次健康被害について考えます。東日本大震災で、さまざまな立場で直接関わり持った方々を講師に招き、排せつ（トイレ）や避難所の食事・防災食（キッチン）、睡眠（ベッド）について、具体的事例や状況から、対応策、社会ビジネスへの展開などの情報を共有します。2回講座となりますが、ご都合の良い回だけの参加も歓迎です。2回ご参加いただきますと、より学びが深まります！

開催方法 オンライン配信 (Zoomウェビナー)

第1回

2月7日 金
19:30~21:00

19:35~20:05

「震災後の生活で知ってほしいこと」

3.11メモリアルネットワーク 語り部 浅野 仁美

20:05~20:35

「自然災害にどう備える?起きた後、何ができる?」

静岡県立大学グローバル地域センター
自然災害研究部門 特任教授 楠城 一嘉

お申込はこちら

申込期限：2/6(木)



第2回

2月14日 金
19:30~21:00

19:35~20:05

「東日本大震災津波における栄養・食生活支援
～培った経験を未来に繋ぐ～」

岩手県久慈保健所 主任栄養士 古館 伸郎

20:05~20:35

「避難所の環境改善で災害関連死を防ぐ
～イタリアから学ぶTKB48とは?～」

Jボックス株式会社 代表取締役 水谷 嘉浩

お申込はこちら

申込期限：2/13(木)



コーディネーター

静岡県立大学グローバル地域センター自然災害研究部門 特任教授 楠城 一嘉 (敬称略)

主催 静岡県立大学グローバル地域センター 静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター

共催 岩手県久慈保健所

お問合せ

電話：054-264-5441

E-mail：kenkoshoku@u-shizuoka-ken.ac.jp

HP：https://www.global.center.jp

静岡県立大学において危機管理や自然災害などを研究するグローバル地域センターと連携し、日本における防災、避難所の現状を踏まえ、学術的側面からの講義も行い、災害時のウェルビーイングについて学びを深めます。

第2回では、避難所での生活のQOL (Quality of Life)を少しでも向上させることをめざす避難所・避難生活学会常任理事の水谷嘉浩さんをお招きします。東日本大震災以降、避難所に段ボールベッド「暖段はこベッド」を提供する行政との防災協定締結のシステムを構築した事例や、日本、海外での避難所の現状、防災に対するビジネス的アプローチ、防災食などに関して、ウェルビーイングの視点からお話をうかがいます。



講師プロフィール (敬称略)

第1回

浅野 仁美 3.11メモリアルネットワーク

東日本大震災では2～3mの津波で自宅は被災し全壊。当時、小学校5年生の娘と間一髪で自宅2階の屋根に上り助かった。その後、娘が通っていた小学校が1,700人の避難所となり6ヶ月間身を寄せた。町内会の役員ではなかったが、避難所のリーダーの1人となり、避難者、学校、地域で在宅避難をしていた町内会の方々と連携しながら避難所運営に携わった。避難所で出会った人々との縁で各地にて震災の体験を伝えている。



楠城 一嘉 静岡県立大学グローバル地域センター 自然災害研究部門 特任教授

地震・火山・津波を研究し、防災啓発教育も得意とする地球科学者。今期は講師も務め、自然災害の研究からヒントを得た、家庭でできる防災の知恵について講義をする。主な著書の「地震と火山と防災のはなし(編著)」(成山堂書店)がある。



第2回

古舘 伸郎 岩手県久慈保健所 主任栄養士

盛岡大学短期大学部を卒業後、保育所や大学病院を経て岩手県に入職。県立病院及び県庁・保健所等に管理栄養士として勤務し、令和2年度から現職。東日本大震災津波当時は沿岸の久慈保健所に勤務し、避難所や仮設住宅等での栄養・食生活支援を行う。元カヌー競技選手でNEW!!わかふじ国体(静岡国体)にも出場。(公社)日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DAT)リーダー。



水谷 嘉浩 Jパックス株式会社 代表取締役

避難所・避難生活学会常任理事。京都工芸繊維大学で博士(工学)を取得。東日本大震災をきっかけに段ボールベッドを考案。雑魚寝を無くし、避難所の環境改善を通じて二次健康被害を減らす取り組みを始めると同時に、段ボール産業が災害時に避難所を支える防災協定の仕組みを構築し、全国に普及するよう努めている。また、同会常任理事の立場で避難所に関する研究活動や啓蒙活動を行なっている。段ボールベッドに関する自治体との防災協定の発案者としても有名(2011年6月愛知県新城市から)。

